

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：35404

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2021

課題番号：15K02330

研究課題名（和文）中世イギリス神秘主義文学における対話と読者に対する説得的ストラテジーに関する研究

研究課題名（英文）Studies of Dialogues in Medieval English Mystical Literature and the Persuasive Strategies Used for Their Target Readers

研究代表者

吉川 史子（YOSHIKAWA, FUMIKO）

広島修道大学・商学部・教授

研究者番号：50351979

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は中世イギリス神秘主義文学のジャンルにおける著者や読者層の変化を反映するテキスト構造や修辞技法の特徴を明らかにした。中英語期にいくつかの宗教散文作品が女性によって英語で書かれたり、英語以外の言語で書かれた女性による宗教散文作品が英語に翻訳されたりしている。また、同時代の精神哲学的手引き書には女性もしくは女性を含む平信徒を対象に書かれたものもある。本研究はこの著者もしくは対象読者における変化がどのように著者が使用する修辞技法や、著者が自分と想定上の読者との間の対話形式でテキストを構成するかどうかに影響を及ぼしているのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

女性が英語で宗教散文を書き始めたり、女性を対象読者とした宗教手引き書が作成されたりしたということは、中英語時代に女性の読書がより奨励されるようになっていく社会背景や、隠遁修道女や、修道会に属さない平信徒のまま祈りの道を歩んだ女性たちが多数存在したという時代背景を反映している。このような社会変化を反映していると思われるテキスト上の変化を明らかにすることは学術的に意味のあることであると考えられる。また、本研究が研究対象としたテキスト群に反映された変化は、現代社会の研究においても重要な研究テーマのひとつである女性の社会進出の初期の姿を反映していると捉えることができるので、社会的意義も大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：This study investigated text-structural and rhetorical features that reflect the gender difference of the author or a change of the target readers in the genre of medieval English mystical literature. In the Middle English period, some religious prose was written by a female author in English or religious works written by female authors in another language were translated into English, in both of which the target readers were also women. There are also spiritual guidebooks composed in the same period whose target readers were women or lay people including women. This study illustrated how these changes of the author or the target readers seem to have affected the author's uses of rhetorical strategies or the author's adoption of the didactic form of dialogue between the assumed reader and the writer as the main text structure.

研究分野：中世英語宗教散文の語用論的分析

キーワード：神秘主義 中世英文学 史的語用論 文体論 対話 説得 談話ストラテジー ポライトネス

#### 1. 研究開始当初の背景

Andreas H. Jucker 編 *Historical Pragmatics: Pragmatic Developments in the History of English* (1995) が出版されて以降、社会変化を反映した言語運用の通時的变化についての研究が国内外で盛んになっている中、本研究の研究代表者は、中世イギリス神秘主義作品を語用論の視点から分析する研究に継続して取り組んできた。その中で、本研究代表者は、著者が読者に対して投げかける修辞疑問は中英語期宗教散文でしばしば用いられる読者を説得するためのストラテジーのひとつであるにもかかわらず、**Julian of Norwich** の *Revelations of Divine Love* にはほとんど用いられないことに気がついた。中英語期の神秘主義作品群に、中世後期になると女性による作品、もしくは女性を対象読者に含んでいると思われる作品が増えてくることから、女性によって書かれた作品において、男性によって書かれた作品とは目立って異なる文体が現れる場合、その文体上の変化は著者や対象読者の変化を反映したものである可能性が高いと考えたことが研究の背景である。

#### 2. 研究の目的

本研究は中世イギリス神秘主義作品とその関連作品に語用論的分析を適用して研究するものである。中英語期後期には、女性神秘家による著作や、女性を含む平信徒の教化を目的とする宗教散文が増加するが、このような執筆者・対象読者層の変化が、当時のテキストにどのような文体的変化を引き起こしたのかを明らかにすることが本研究の目的である。具体的には、以下の2点を明らかにしようとした：

- (1) 男性とは異なる社会的立場にいる執筆者（すなわち、女性）が書いたものであることを反映すると思われる著者の読者に対する説得的効果を狙って用いられた談話ストラテジーの変化を明らかにすること。もしくは、それまでの時代とは異なる対象読者層へと変化したこと（女性を主とする、または女性を含む読者層への変化）を反映すると思われる対象読者に対する説得的効果を狙って用いられた談話ストラテジーの変化を明らかにすること。
- (2) 男性とは異なる社会的立場にいる執筆者が書いたものであることを反映すると思われるテキスト中の対話、または、対象読者層の変化を如実に反映すると考えられるテキスト中の対話を詳しく観察して、作品間の類似点と相違点を明らかにすること。

#### 3. 研究の方法

上記の2つの研究目的別に、テキストを語用論的に分析した先行研究を参照して以下の方法で研究を進めた：

- (1) 執筆者が女性であること、もしくは、それまでの時代とは異なる対象読者層へと変化したことを反映すると思われる談話ストラテジーの変化を明らかにしようとする研究においては、著者の読者に対する説得的な態度の現れであると思われる言語運用上の特徴を収集、考察することで、各作品の著者が読者に対して説得力のあるテキストを構成するためにどのような戦略をとっているかを明らかにしようとした。
  - (2) 対象読者層の変化を如実に反映すると考えられるテキスト中の対話に関する研究においては、対話に関する先行研究である **Taavitsainen (1999)** に基づいて、テキストにおける対話形式の導入・展開の仕方、対話者間の社会的力関係や親密度、ことばの丁寧さ、自然な会話への近接度などを詳しく考察することで、作品間の類似点と相違点を明らかにしようとした。
- また、(1) と (2) に関連が見られる場合には、これらが相互にどう関連するのかについても考察した。

#### 4. 研究成果

(1) **Julian of Norwich** の *Revelations of Divine Love* (以後 *Revelations*) と *Ancrene Wisse* のテキストにどのような対話が組み込まれているのかを **Taavitsainen (1999)** に基づいて調査、比較し、これらテキスト中の対話に関する類似点と相違点が、両作品中で説得的ストラテジーが多用される理由とどう関連しているのか、また、*Revelations* には読者に対する修辞疑問がほとんど見られないこととどう関係しているのかを明らかにした。その成果は、'Dialogues and Rhetorical Questions in Middle English Religious Prose' の題目で、まず、**2015年5月3日**に **The 9th International Conference on Middle English (ICOME 9)** に於いて口頭発表し、その後推敲を重ねて論文に書き直し、同国際学会の主催者が編纂した論文集 **Jacek Fisiak, Magdalena Bator and Marta Sylwanowicz (eds) (2015) *Essays and Studies in Middle English: 9th International Conference on Middle English, Philological School of Higher Education in Wrocław*** に投稿し、掲載された。

(2) *The Book of Margery Kempe* には、**Margery** の聖地エルサレムやローマへの巡礼が描かれているが、そこで描写された地点や描写された内容と、他の旅行記や巡礼ガイド、地図に描かれた聖地やローマの描写とを比較し、まず、どのような地点で、どのようなものを描写しているかということに関して比較考察した。この研究の成果は、**2016年1月9日**にオックスフォード

大学の St Hilda's College で開催された **Mystical Theology Network** の年次大会（大会テーマは **Art and Articulation: Illuminating the mystical Medieval and Modern**）で、**'Pilgrimage Description in The Book of Margery Kempe and Medieval Travel Journals, Pilgrim Guides and Maps: An Identification of Similarities and Differences'** の題目で口頭発表した。その後さらに、**Bhatia (1993; 2005)** に基づいて、これらのテキストにおいて **communicative purposes** がどのように構成されているかを比較考察した。**Bhatia** は広告等ビジネス文書を研究対象としていたため、分析対象となるテキストが比較的短く、各テキストの **communicative purposes** が比較的単純な構造を示すのに対して、本研究が対象とするテキストは非常に長く、複雑な **communicative purposes** の構造を考察しなければならなかった。その結果、**Bhatia (1993; 2005)** の手法だけでそれらのテキスト間の違いを端的に示すことはできず、他の分析を併せたより総合的な考察が必要であることがわかった。この研究の成果は米国ミシガン州カラマズー市の **Western Michigan University** で開催された **The 52nd International Congress on Medieval Studies** に於いて **'Topographical reflection in The Book of Margery Kempe'** の題目で口頭発表した。

(3) **The Book of Margery Kempe** に表された対話の中で用いられる二人称代名詞を全て調査し、二人称代名詞についての先行研究で明らかにされたことを考え合わせて **thou** と **ye** がどのように使い分けられているのかを明らかにした。この研究の成果は **2016 年 12 月 15 日** に英国グラスゴー大学で行われた **Mystical Theology Network** の年次大会（大会テーマは **Mysticism in Comparative Perspective**）に於いて、**'Address Pronouns in The Book of Margery Kempe'** の題目で口頭発表した。

(4) **Kerby-Fulton (2006: 297)** が **Julian of Norwich** のテキストとの類似点を指摘しているテキストのうち、**The Cloud of Unknowing** と **The Book of Margery Kempe** について、ポライトネス理論の観点から考察し、異端の嫌疑を避けようとする意識の反映だと見られるいくつかの談話ストラテジーがそれらのテキストに共通して見られることを明らかにした。この研究成果はノルウェーの **University of Stavanger** で開催された **The 10th International Conference on Middle English (ICOME 10)** に於いて **'Text Politeness in Middle English Religious Prose: A Focus on Works That Might Have Been Regarded as Heretic'** の題目で口頭発表した。

(5) **British Library Additional MS 37790** には、女性による神秘主義文学のテキストが二つ含まれている。ひとつは、**Julian of Norwich** の **Revelations of Divine Love**、もうひとつは **Marguerite Porete** のフランス語の著作 **Le Miroir des Âmes Simples** の中英語訳 **The Mirror of Simple Souls** である。本研究は、この二つのテキストの構造、レトリック、語彙における類似点と相違点を指摘した。後者には **M.N.** というイニシャルのみ記された翻訳者の序文と注が挿入されているため、分析の際には **Julian**、**Porete**、**M.N.** の 3 人の類似点と相違点を比較することになった。分析の結果、**Julian** と **M.N.** の序文には共通点が多く、正当な神学と矛盾していないことを強く主張する傾向が見られた。この研究成果は **2018 年 6 月 28 日** に英国 **Norwich** 市の **University of East Anglia** で開催された **The 8th International Anchoritic Society Conference** に於いて、**'Lexical and Rhetorical Links Connecting Two Texts in British Library Add. MS 37790'** の題目で口頭発表した。

(6) **Ancrene Wisse** では著者が読者に喩えを用いて説明することが珍しくないが、一方 **Revelations of Divine Love** では著者である **Julian** が読者に喩えを用いて啓示について説明することは非常にまれである。本研究では、**The Book of Margery Kempe** も加えて調査し、これらのテキストの著者や、引用された対話に登場する人物のうち、喩えを使って話す場面が示されているのはどのような人物なのか考察した。その結果、主に喩えを使うのは、**Julian** や **Margery** に語りかけるイエスや男性の聖職者たちであることが明らかになった。この研究成果は米国ボストン市の **Boston College** で開催された **Mystical Theology Network** の年次大会に於いて、**2019 年 3 月 1 日** に **'Metaphor Users in Late Middle English Women's Mystical Texts'** の題目で口頭発表した。

(7) 談話標識として機能する **nou**（現代英語の **now**）を **Helsinki Corpus of English Texts** の中英語期の 4 つのファイルで調査し、**nou** の使用と作品ジャンルとの関係について考察を加えた。ロマンスや聖史劇といった地の文に対話文が組み込まれる構造を持つテキスト中の対話文に **nou** が頻出すること、教育的な目的で書かれたテキストや説教形式で書かれたテキストで、著者が話題転換のマーカースとして **nou** を頻繁に用いていることを示し、**nou** が中英語期においても口語形式の文体で用いられる傾向にあることを明らかにした。この研究成果は **2019 年 7 月 1 日** にオーストラリア国立大学で行われた **The 24th International Conference on Historical Linguistics** に於いて **'The Uses of Now: Its Styles and Genres in Middle English Texts'** の題目で口頭発表した。

(8) また、本研究課題が採択される前の **2014 年** に英国 **Newtown** の **Gregynog Hall** で開催された **The Fifth International Anchoritic Society Conference** で口頭発表した **Julian of Norwich** の修辞法に関する知識に関する研究をもとに論文を執筆した。この研究は、当時広く読まれていた説教マニュアル **Robert of Basevorn** の **Forma Praedicandi** で紹介されている **sermo modernus (the modern method)** と呼ばれる修辞法を **Julian** が実際に使っているかどうか調査し、考察したものである。彼女の文体には **sermo modernus (the modern method)** の影響が見られるものの、厳密にそれに従っているわけではないことを明らかにすることができた。この論

文を '**Julian of Norwich and the Medieval Arts of Preaching**' の題目で米国の学術雑誌 *Magistra: A Journal of Women's Spirituality in History* に投稿したところ、**2015** 年に発行された第 **21** 巻 (pp. **90-109**) に掲載された。

(9) 本研究課題を遂行する過程において、分析の基盤として参照している説得的ストラテジーに関する論文集 **Helena Halmari and Tuija Virtanen (eds) (2005) *Persuasion Across Genres: A Linguistic Approach*** の編者の一人である **Virtanen** 教授が学部長を務められている **Åbo Akademi University** の英語英文学科で**2018**年**2**月から**3**月にかけて1ヶ月間**Visiting Scholar**として研究させていただく機会を得た。説得的ストラテジーに関して、また私が興味を持っている語用論に関連する他のトピックに関連して、**Virtanen** 教授はもちろん、同大学の先生方や大学院生からたくさんの有益な助言を得ることができた。**Åbo Akademi University** 滞在中の**3**月**1**日には、同大学英語英文学科の **SPREMI** セミナーに於いて '**Persuasion in Middle English Texts Written by or for Women Devoted to Religious Life**' の題目で私がこれまで取り組んできた「説得」に関する研究を紹介する約**1**時間の講義を行う機会をいただいた。このセミナーに続いて、**3**月**7**日には、同じトゥルク市内にあるもうひとつの国立大学 **University of Turku** の **Matti Peikola** 教授に **Philological Colloquium** という研究会で現在本研究代表者が取り組んでいる研究について同大学で中世近代英語英文学研究に取り組む先生方や大学院生に紹介する機会をいただき、'**Persuasion in Middle English Texts Written by or for Women Devoted to Religious Life**' の題目で研究報告を行った。この1ヶ月間の **Åbo Akademi University** での研究生活、同大学の先生方、**University of Turku** の先生方、大学院生との交流は、本研究者のその後の研究活動に大きな影響を与えており、この期間に新しく興味を持ったトピックはその後研究を発展させる上で大変有益だったので、この **Visiting Scholar** としての研究活動及び国際交流も本研究の成果のひとつであると考え。

<引用文献>

- Bhatia, Vijay K. (1993). *Analysing Genre: Language Use in Professional Settings*. London: Longman.**
- Bhatia, Vijay K. (2005). 'Generic Patterns in Promotional Discourse', in H. Halmari and T. Virtanen (eds), *Persuasion Across Genres: A Linguistic Approach*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 213-225.**
- Halmari, Helena and Virtanen, Tuija. (eds). (2005). *Persuasion Across Genres: A Linguistic Approach*. Amsterdam: John Benjamins.**
- Jucker, Andreas H. (ed.). (1995). *Historical Pragmatics: Pragmatic Developments in the History of English*. Amsterdam: John Benjamins.**
- Kerby-Fulton, Kathryn. (2006). *Books under Suspicion: Censorship and Tolerance of Revelatory Writing in Late Middle English*. Notre Dame, Indiana: University of Notre Dame Press.**
- Taavitsainen, Irma. (1999). 'Dialogues in Late Medieval and Early Modern Medical Writing', in A. H. Jucker, G. Fritz, and F. Lebsanft (eds), *Historical Dialogue Analysis*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 243-268.**

# 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Fumiko Yoshikawa	4. 巻 21 (Number 1)
2. 論文標題 Julian of Norwich and the Medieval Rhetorical Arts of Preaching	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Magistra: A Journal of Women's Spirituality in History	6. 最初と最後の頁 90-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件／うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2. 発表標題 The Uses of Nou: Its Styles and Genres in Middle English Texts
3. 学会等名 The 24th International Conference on Historical Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2. 発表標題 Lexical and Rhetorical Links Connecting Two Texts in British Library Add. MS 37790
3. 学会等名 6th International Anchoritic Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2. 発表標題 Metaphor Users in Late Middle English Women's Mystical Texts
3. 学会等名 2019 Annual Conference of Mystical Theology Network (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Topographical Reflection in The Book of Margery Kempe
3 . 学会等名 The 52nd International Congress on Medieval Studies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Text Politeness in Middle English Religious Prose: A Focus on Works That Might Have Been Regarded as Heretic
3 . 学会等名 The Tenth International Conference on Middle English ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Persuasion in Middle English Texts Written by or for Women Devoted to Religious Life
3 . 学会等名 SPREMI, Abo Akademi University ( 招待講演 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Persuasive Strategies Which Are Adopted or Not Adopted in Late Middle English Women's Mystical Works
3 . 学会等名 Philological Colloquium, University of Turku
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Address Pronouns in The Book of Margery Kempe
3 . 学会等名 Mysticism in Comparative Perspective, Mystical Theology Network Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Dialogues and Rhetorical Questions in Middle English Religious Prose
3 . 学会等名 The Ninth International Conference on Middle English (ICOME 9) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2015年

1 . 発表者名 Fumiko Yoshikawa
2 . 発表標題 Pilgrimage Description in The Book of Margery Kempe and Medieval Travel Journals, Pilgrim Guides and Maps: An Identification of Similarities and Differences
3 . 学会等名 Art and Articulation: Illuminating the Mystical, Medieval and Modern (The Mystical Theology Network 主催) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1 . 著者名 Jacek Fisiak, Magdalena Bator, Marta Sylwanowicz, Fumiko Yoshikawa et al.	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 Peter Lang	5 . 総ページ数 315 (pp. 249-262)
3 . 書名 Jacek Fisiak, Magdalena Bator and Marta Sylwanowicz (eds.) Essays and Studies in Middle English: 9th International Conference on Middle English, Philological School of Higher Education in Wrocław, 2015	

〔産業財産権〕

〔その他〕

吉川史子（ヨシカワ フミコ）／広島修道大学 教員情報  
<https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymingeybggy>

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------